

きっかけは、利用者さんの家族さんからかかってきた一本の電話でした。

「友人の夫が医療法人に勤めており、JICA のブラジル研修生に愛媛県の医療・福祉施設を数件案内することになっている。私は吾も紅のケアが素晴らしいと思っているので、ぜひ見学するよう推薦したが

考えていただけないか」という内容でした。

とんでもない、と恐縮しつつも、海外の方との交流を図れる良いチャンス…

これも利用者さんのケアに繋がる、と見逃さない私。

かくして「ブラジル交流会」が企画されたのでした。

さる 11 月 22 日、2 名のブラジル人男女が吾も紅を訪れました。ツヨシさんとラーラさん。ツヨシさんは日系 3 世で、日本語がペラペラです。お二人とも医療従事者でブラジルでは優秀な人材です。

吾も紅の面々は、廊下に花道を作り、事前に予習した「オーラ！（こんにちは!）」という挨拶でお出迎え。自己紹介の後は、さっそく本日の日程スタートです。

まずはU君お得意の「手打ちうどん作り」

ブラジルからのお二人は初めてということで、うどんの生地踏みから参加していただきました。

足の裏の触感に戸惑いつつ、リズムに乗って足踏み。カメラを向けるとピースサインで答えてくださいました。このあと利用者の皆さんにも代わる代わる踏んでももらいました。

次に、できた生地を伸ばします。ここは男性利用者 I さん N さんの腕の見せ所。簡単そうですが、結構力が入るので。ツヨシ・ラーラさんも挑戦！

苦勞して薄く伸ばした麺を職員 M 君、「マイ包丁」を持参して手早く細く切っていきます。

見事な包丁さばきにおお～と上がる歓声。お二人にももちろん切ってもらいました。



うどんを湯がいている間、女性陣は「かき揚げ」作り。利用者さんの切った野菜にてんぷら粉をつけて上手に揚げていきます。一方で始まったちらし寿司作り。炊きあがったご飯に酢を混ぜうちわで扇ぐこれまた皆さん手慣れたもの。



「お次はこちらに集まって下さいーい」  
皆さん縁側に移動すると、そこでは「羽釜」でご飯を炊いている所。  
アウトドア大好きT君が、羽釜をしかけ、米が美味しそうに炊き上がるころでした。  
「昔はガスがなかったのだからこうやって炊いていました」お年寄りの説明に、  
ツヨシさん「聞いたことも見たこともあるが、実際に炊いているのを見るのは初めて」とのこと。

炊きあがった米を利用者OさんSさんが「半殺し」につぶして丸め、おはぎを作ります。  
「おはぎは作ったことありますか？」いいえ、の返事。  
今ではブラジルの高齢者も作らないとか。このおはぎは午後からのティータイムに食べていただくよう、お土産にしました。



本日のご飯とデザートに目星がついたところで、お次は「日本の遊び」を紹介。  
輪になって「数え歌」を歌いつつお手玉を披露。

日系人の多いブラジルには日本文化を伝承する「文化保存会」があるそうで、さすがツヨシさんは上手にお手玉（おじゃみ）を使いこなします。

が、純ブラジル人のラーラさんも初めてというお手玉を軽々扱い、器用なことに驚き！皆さんの称賛を浴びていました。

さらに「おさるのかごや」を歌いながらお手玉を隣の人の手に載せていく遊びも一緒にしました。溜まっていく人や足りない人が出てきてみんな大笑い。



「けん玉大会」では、練習してきたI君が「世界一周」の大技を披露。「OH！」と驚嘆したブラジルのお二人でしたが、I君がコツを教えると、短時間であっさり習得してしまいました。恐るべし、ブラジルの秀才！！

最後に、皆さんから日本の歌のプレゼント。

この日のために練習した「もみじ（二部合唱）」「赤とんぼ」「ふるさと（二部合唱）」を職員Oさんのピアノに合わせて歌います。

「本日はありがとうございました」交流の証に利用者Oさん手縫いしたランチョンマットとお手玉をプレゼント。手芸の得意なOさんは、事前に男性用と女性用の和柄の生地ですてきにランチョンマットを縫っていたのでした。

感動したお二人からお菓子のお土産を頂き、皆さん和やかな雰囲気の中で昼食会。力を合わせて作った天ぷらうどんとちらし寿司です。ビールやジュースで乾杯し、一つのテーブルを囲みます。バックの生演奏は「ともの家楽団」。「上を向いて歩こう」をピアノ、サクソフーン、電子リコーダーで奏でてくれ、本格的でした。やはり生演奏はいいなあ…



こうして最後まで楽しく盛り上がった交流会。

「コロナ禍で、見学型の研修が多い中、このような体験ができてありがたかった。皆さんと  
触れ合えたことをこれからの勉強の糧にしていきたい」

お二人からの感想でした。帰りは全員（利用者さんも）が玄関までお見送り。

「オーラ！」と手を振り、笑顔で手を振ります。お客様をもてなそうという気持ちが伝わればいいな…

実は吾も紅にとっても、ステップアップの催しだったのです。

料理の得意な U 君、M 君。

アウトドア好きな T 君。

音楽好きで楽器が演奏できる T 君、I 君、U 君、O さん。

そして利用者さんの持てる力。

彼らの個性を最大限に生かす。誰が欠けても成功しませんでした。皆を大切にし、力を引き出す。それが吾も紅の「一丸ケア」です。

ツヨシさんラーラさん、どうぞお元気で、ブラジルでのご活躍をお祈りしています！

オーラ！